

# 公民館 ふっさ

No.171 目次

- ① 目指せデジタルシニア！
- ②③ 公民館ふっさ誌面講座  
「多様性あふれる福生を  
より良く生きるには？」
- ④ 公民館事業の報告、講座のお知らせ

令和6年2月15日

編集  
発行

- 福生市公民館  
公民館事務所
- 公民館松林分館
- 公民館白梅分館

〒197-0011  
〒197-0024  
〒197-0013  
〒197-0003

福生市福生2455 ※市民会館併設  
福生市牛浜163 さくら会館内  
福生市武蔵野台1丁目15-1  
福生市熊川559-1

☎ 042-552-2118 FAX 042-552-2228  
☎ 042-552-3624 FAX 042-530-2512  
☎ 042-553-3454 FAX 042-530-2513



公民館ページ  
QRコード

## 公民館3館合同事業「目指せデジタルシニア！」 発表会を開催します!!

令和5年12月から、スマートフォン（スマホ）の便利な使い方を学ぶ「目指せデジタルシニア！事業」が公民館3館でそれぞれ始まりました。

各館のテーマに基づき、ご自身のスマホを使いながら、参加者は和気あいあいと実践学習を重ねています。講座回数も折り返し地点を過ぎ、いよいよ3月10日（日）には、3館の参加者が一同に集まり、学習成果発表会を行います。

### 本館

「脱！スマホの持ち腐れ～アプリ活用で生活を豊かに！～」

Wi-Fi 接続や、OS のアップデートの仕方からスタートし、ニュースアプリやメッセージアプリ等の活用方法を学んでいます。

### 松林分館

「もっとスマホは使いこなせる！～撮りっぱなしの写真や動画を編集してお披露目してみよう～」

動画をアプリで編集する方法について、音楽や文字を追加したり、楽しい演出で繋ぎ合わせたり、試行錯誤しながら学んでいます。

### 白梅分館

「スマホアプリお役立ち術～便利な機能で暮らしのサポート～」

地図やカレンダー、画像を利用した検索など、普段の生活で役立てられるよう、アプリの使い方を学んでいます。



## 学習成果発表会

学習成果発表会には、この講座に参加されていない市民の方もぜひお越しください。発表を見て、ご自身のスマホのスキルアップにつなげてみませんか？当日、会場にはFVAC（ふっさ・ボランティア・市民活動センター）、地域まなびあいボランティア、公民館サークルとして活動ができる情報交流の場もあります。講座に参加した方も、参加していない方も、ご自身がお持ちのスキルや経験を活かして活動しませんか。あらたな活躍の場が見つかるかもしれません。

【日時】 3月10日（日）午後1時30分から 【場所】 福生市民会館小ホール  
【定員】 260名 【申込み】 不要（当日、直接お越しください）

# 多様性あふれる福生をより良く生きるには？

～DEIBとウェルビーイングでサステナブルなまちづくり～

講師 **萩元直樹氏** (サステナブルタウン代表/ローカルイベントプロデューサー)

## プロフィール

小平市職員、東京都職員、東京2020大会組織委員会職員を経て、地域に暮らす一人ひとりが環境・社会・経済にとって最適な選択を見つけられる「サステナブル(持続可能)な地域社会」『サステナブルタウン』を日本中にたくさん作ることをミッションとして2022年に設立  
福生市公民館において、2018年度より、多文化共生講座「やさしい日本語・多言語音声翻訳でだれでも国際交流プロジェクト」(松林分館)など、多文化共生事業に講師として登壇



簡単に想像してみてください。同質な100人と多様な100人。そのどちらが集まるまちを魅力的だと感じますか？たしかに、同質な人同士だと楽なことが多いです。でも、それは表面的なコミュニケーションだからなのかもしれません。一方、それぞれの違いを感じている人同士だと、異なる考え方や文化などを持つため、コミュニケーションは少し難しくなるでしょう。でも、人と人が話し合ったり、気持ち交換し合ったりすることで、新たに生まれる学びや価値の存在をあなたは知っているはず。そもそも全く同質な人なんていないですし、人はそれぞれ違うから面白いのですよね。

の文化的差異を認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」と定義されています。行政の手続きなどにおいて国籍で区別することはあっても、地域に暮らす私たちが「日本人」「外国人」という二分法で安易に区別することは本来必要ないはず。重要なのは、地域に根差して生活する人として同じ「地域住民」という感覚です。おそらく、そこに漠然とある障壁は、言語や文化、宗教、慣習の違いなどに起因するものです。単に情報を共有できていないだけかもしれない。

◆やさしい日本語  
あなたにとって、日本語で大事にしていることは何ですか？  
正確性や厳密さ、説得力や美しさ：答えはそれぞれで、コミュニケーションの場面(場+人間関係)・意識・内容・形式によって異なるはず。やさしい日本語の評価基準は「わかりやすさ」です。つまり、相手に「伝わるかどうか」です。  
やさしい日本語が生まれたきっかけは、阪神・淡路大震災です。日本人だけでなく、多くの外国人も被害を受けました。その中には、日本語も英語も十分に理解できず必要な情報を受け取ることができない人もいました。

◆地域住民にとって国籍とは？  
地方自治法第10条は、「市町村の区域内に住所を有する者」を「住民」としています。つまり、住民に国籍は関係ありません。東京都内でも特に在住外国人の人口比率が高い福生市ですが、多文化共生社会の実現は、福生市に限らず日本社会全体の課題となっています。  
総務省によると、多文化共生は「国籍や民族などの異なる人々が、互い

実際、「福生市・羽村市多文化共生実態調査報告書(2021年)」によると、外国人とのトラブルの経験では「ごみの出し方のルールのこと(約15%)」が最も高く、「部屋の使い方(声・物音など)のこと(約13%)」など、情報を共有したり、話し合うことで改善できるものが目立っています。なお、トラブルの経験が「特にない」と答えた人は約65%で、最も多い回答でした。  
話し合うことから変化は始まります。そこで、地域の共通言語として全国的に普及が進む「やさしい日本語」を紹介します。

ユニバーサルデザインとは、特別な人のための対応ではなく、すべての人のためのものです。ユニバーサルデザインに配慮した「地域の共通言語」として、やさしい日本語を捉えてみましょう。

やさしい日本語とは (日本語ネイティブ向け)

「分かりやすさ」という観点で

- ①言葉の選択
- ②シンプルな文法
- ③話し方・書き方の工夫 など

相手への配慮をした日本語

やさしい日本語とは (日本語学習者向け)

「分かりやすさ」のために

- ①言葉を選びます。
- ②文を簡単にします。
- ③話し方・書き方を工夫します。

最も有名な例を紹介します。  
高台に避難してください。  
高いところへ逃げてください。

やさしい日本語のガイドはWEB上にたくさんあります。ここでは話すときのポイントを3つだけ紹介し

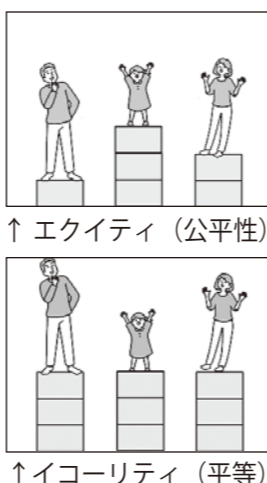
①はつきり言う。②さいごまで言う。③みじかく言う。この3つの頭文字をとって「ハサミの法則」といいます。ハサミのように文章を短くチョキチョキ切って、お寿司を一貫ずつ作って食べてもらうような感覚で、相手の表情やうなずきを確認しながらコミュニケーションをとって

「VoiceTra (ボイストラ)」をはじめとする翻訳アプリとの相性も抜群です。これは私が小平市民と共に実証し、総務省も「その性質上、多言語音声翻訳システムとの親和性が高く、やさしい日本語を使うことで多言語音声翻訳の精度向上が期待できる」と認めています。「デジタ

ル活用共生社会の実現に向けて(2019年3月)。

## ◆多様性をどうしたら良い？

多文化共生に限らず、もう少し大きな視点で考えてみる必要があります。例えば、ジェンダーやLGBTQ、障害、年齢や世代、文化や習慣などに起因する様々な問題があります。もちろん、それぞれ特有の課題に取り組みされていますが、その課題に直面していない人にとって、その問題の深い理解と共に明確な意思を持って課題を設定し行動することは、簡単ではありません。そこで、様々な問題に相通じるような考え方を身に付けることが大切です。そのキーワードはやはり「多様性」です。今の時代、多様性を尊重したり、受け入れられるようになっていきました。D&I(ダイバーシティ&インクルージョン)という概念があります。難しいことは置いておき、「多様性を活かす」と簡単に理解してください。D&Iは自治体や企業の経営に必須なものとなってきています。もちろん、コミュニケーションにおいてもです。しかし、多様性を活かすには、ハードルがあります。そこで登場する概念が「エクイティ(公平性)」です。似た概念で「イコーリテイ(平等)」がありますが、イメージで捉えてください。



公平な環境があるからこそ、多様性を活かすことができる。これを「DE&I(ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン、多様性・公平性・包摂)」といいます。さらには、B(ビロッキング=帰属意識)も加えた「DEIB(ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン・ビロッキング)」の大切さも広がってきました。つまり、「組織やコミュニティの一員として安心感を持って帰属できるか」という視点です。一見、英語で難しそうですが、日本語で簡単に理解してみてください。このように、つながりを大切にしたいコミュニケーションや、多様性をもっと活かせる地域づくりのために、これまで福生市公民館では多文化共生講座を毎年度開講してきましたが、一朝一夕にはいかない大きな課題です。講座の役割は「学びの客体から主体へ」と言われています。パートナーとしてのコミュニケーション。そんな安心感が育まれる良さが公民館の社会教育活動にはあります。「ウェルビーイング」という言葉が

あります。本当の健康や幸福、つまり「よく生きる」というこの問いは、実は100年程前からずっと考え続けられてきました。それは、肉体的・精神的・社会的に、すべてが満たされた状態のことをいいます。そこには、充足・安心・安全・快適・便利といった「生活への自己評価」、愛・絆・つながりなどの「感情」、そして、社会的使命や生きがいなど「人生における意義や幸福」の3要素が必要です。多様性を考えるとき、一人一人のウェルビーイングを実現していくことに大きなヒントがあると私は思います。

◆サステナブルなまちを育もう  
後半、少し難しくなってしまうかもしれません。多文化共生社会ひとつをとっても考えるべきことや取り組むべきことが山のようにあります。そのため、より大きな考え方として「多様性」「DEIB」「ウェルビーイング」という大切なキーワードを簡単に紹介しました。  
まちづくりは、過去の世代からの贈り物であり、同時に、未来の世代からの預かり物です。「お互いを活かすことができる」ならば、多様性あふれる福生をみんながより良く生きることができると私はそう信じて、皆さんへメッセージをお届けしたいと思います。

# 第42回公民館のつどいが開催されました

今年度の公民館のつどいは、「公民館で元気になるう、仲間になろう」をテーマに、仲良く元気に活動し、地域にも出向いて発信しているサークルの事例を、公民館本館、松林分館、白梅分館の順に発表後、講師とグループワークを行いました。



最初に話し合いのポイントとして、①司会者の言うことを聞く、②長く話さない、③人の意見を否定・批判しない、ということを確認しました。話し合いのテーマに、①なぜ学ぶのか？②学ぶ場がなぜ公民館なのか？③なぜ公民館で「元気」になるのか？の3つが出され、それについて活発に語り合うひと時となりました。その合間

には、「公民館は入学も卒業もない、学校とは違うおらかな学び」、「人は学んで変わる」、「わかる」ことは「わかる」こと」等、講師の話を変え、大学の演習授業のような参加型の面白い展開となりました。

今回のつどいでは、公民館でのサークル活動を通して元気になり、人と人とながたり、仲間になって、さらに地域へ関わり、広がることの大切さや意味などを皆さんと考え合いました。

参加された皆さんの学習や交流により、公民館サークルとは何か、そのやりがいや意義について、新たな気づきや再発見があった有意義な機会となりました。

## ●第42回公民館のつどい

【テーマ】公民館で元気になるう、仲間になろう

【日時】令和5年11月25日(土)

午前9時30分～正午

【参加者】62人

【講師】朝岡幸彦氏(東京農工大学教授、元福生市公民館運営審議会委員)

【事例発表サークル】

◆本館(男の台所、福生英会話グループ、ふっさ草笛サークル)

◆松林(舞踊クラブみのり会)

◆白梅(ウクレレサークル・モアナ)

# 講座のお知らせ

## ■本館 平和講演会

戦時下の子どもたち  
わたしと空襲と学童疎開

今から79年前の昭和20年3月10日、この日は東京が米軍のB29爆撃機により大空襲を受けた日で、東京東部は焼け野原と化し、10万人以上の尊い命が奪われました。東京都は、平成2年にこの日を「東京都平和の日」と制定しました。

講師は、下谷区根岸(現在の台東区)に住んでいましたが、昭和19年頃より戦禍は厳しくなり、子どもたちは学童疎開、縁故疎開を余儀なくされ、小学3年生の時に福島県の会津へ学童疎開しました。

講演会では、少年の目から見た当時の世相や空襲、学童疎開、また激変した戦後の状況等についてお話をさせていただきます。

【日程】3月3日(日)午後2時～4時

【場所】市民会館公民館第4・5集会室

【対象】市内在住・在勤・在学の方

【講師】鳥居由幸氏(学童疎開体験者)

【定員】先着50人

【申込み】受付中。午前9時から午後5

時の間に、直接または電話で公民館係へ。☎042・552・2118

## ■松林分館 環境講座

「福生の自然、その特徴と変遷」  
いま、福生の自然に何が起きているのか

長年、福生市や周辺の自然や生き物たちを観察してきた講師から、福生の自然とその変化についてお話を聞き、環境について学びます。

【日時】3月9日・16日の土曜日(全2回) 午後7時～9時

【場所】公民館松林分館

【対象】市内在住・在勤・在学の方

【定員】先着20人

【持ち物】筆記用具

【講師】野村亮氏(特定非営利活動法人自然環境アカデミー代表)

【申込み】2月20日(火)から、午前9時～午後5時の間に、直接または電話で公民館松林分館へ。

☎042・552・3624  
※インターネット申込みもできます。



環境講座  
申込み

